

日田市消防団の状況

平成22年12月15日現在

	定数	実数	うち市職員数
消防団本部	1	1	0
日田方面団	471	447	7
前津江方面団	116	101	14
中津江方面団	110	91	16
上津江方面団	102	91	15
大山方面団	153	136	21
天瀬方面団	265	252	14
計	1,218	1,119	87

日田市人口	72,316		
職員数	672		
人口に対する職員の割合(%)	0.93%	職員のうち、消防団に参加している割合(%)	12.94%

第6章 資料編

1. アンケート調査の概要

(1) 調査年月、調査基準日、調査方法

*一般（20歳～64歳の市民） *高齢者（65歳以上の市民）

*障がい者（身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・障がい児・一般）

区 分	調 査 年 月	調 査 基 準 日	調 査 方 法
旧日田市	平成16年1月	平成16年1月1日	民生委員による訪問依頼・回収
旧日田郡	平成17年7月	平成17年4月1日	郵 送

*未就学児（0歳～5歳） *小学生（6歳～11歳）

区 分	調 査 年 月	調 査 基 準 日	調 査 方 法
旧日田市	平成16年1月	平成16年1月1日	民生委員による訪問依頼・回収
旧日田郡	平成15年11月～ 平成16年3月	平成16年4月1日	郵 送・保育園・小学校等

*地域福祉懇談会

区 分	調 査 年 月	調 査 基 準 日	調 査 方 法
旧日田市	平成15年7月～ 平成15年9月	平成15年4月1日	懇談会開催時に配布・回収
旧日田郡	平成17年9月～ 平成17年11月	平成17年4月1日	

(2) 調査対象者数、調査票送付数、回答者数、回答率

*一般（20歳～64歳の市民）

区 分	調査対象者数	調査票送付数	回答者数	回答率
旧日田市	34,910人	1,514人	1,306人	86.3%
旧日田郡	7,127人	300人	151人	50.3%
合 計	42,037人	1,814人	1,457人	80.3%

*高齢者（65歳以上の市民）

区 分	調査対象者数	調査票送付数	回答者数	回答率
旧日田市	14,692人	1,522人	1,393人	91.5%
旧日田郡	4,673人	450人	344人	76.4%
合 計	19,365人	1,972人	1,737人	88.1%

* 身体障がい者

区 分	調査対象者数	調査票送付数	回答者数	回答率
旧日田市	2,620 人	202 人	124 人	61.4%
旧日田郡	772 人	50 人	34 人	68.0%
合 計	3,392 人	252 人	158 人	62.7%

* 知的障がい者

区 分	調査対象者数	調査票送付数	回答者数	回答率
旧日田市	318 人	72 人	39 人	54.1%
旧日田郡	56 人	15 人	8 人	53.3%
合 計	374 人	87 人	47 人	54.0%

* 精神障がい者

区 分	調査対象者数	調査票送付数	回答者数	回答率
旧日田市	75 人	68 人	32 人	47.1%
旧日田郡	28 人	10 人	7 人	70.0%
合 計	103 人	78 人	39 人	50.0%

* 障がい児

区 分	調査対象者数	調査票送付数	回答者数	回答率
旧日田市	55 人	27 人	15 人	55.6%
旧日田郡	14 人	5 人	3 人	60.0%
合 計	69 人	32 人	18 人	56.2%

* 一般（障がい者）（20歳～64歳の市民）

区 分	調査対象者数	調査票送付数	回答者数	回答率
旧日田市	34,910 人	255 人	113 人	44.3%
旧日田郡	7,127 人	60 人	32 人	53.3%
合 計	42,037 人	315 人	145 人	46.0%

* 地域福祉懇談会（旧日田市 15 地区、旧日田郡 7 地区）

区 分	懇談会参加者数	調査票配布数	回答者数	回答率
旧日田市	517 人	517 人	356 人	68.9%
旧日田郡	201 人	201 人	150 人	74.6%
合 計	718 人	718 人	506 人	70.5%

(3) 地域福祉懇談会の開催状況

日田市福祉保健部と日田市社会福祉協議会の共催により、市内 22 地区で地域福祉懇談会を開催し、日田市福祉保健部及び日田市社会福祉協議会の事業概要説明、日田市地域福祉計画の概要説明後、意見交換やアンケート調査を行いました。

No	地 区 名	開 催 年 月 日	時 間	場 所	参加者
1	朝 日	平成 15 年 7 月 17 日 (木)	19:30~21:40	朝日改善センター	26 人
2	五 和	平成 15 年 7 月 18 日 (金)	19:30~21:30	日 田 園	30 人
3	三 花	平成 15 年 7 月 24 日 (木)	19:30~21:10	三花公民館	52 人
4	夜 明	平成 15 年 7 月 29 日 (火)	19:30~21:40	夜明振興センター	17 人
5	桂 林	平成 15 年 7 月 30 日 (水)	19:00~21:00	文化センター	35 人
6	光 岡	平成 15 年 8 月 1 日 (金)	19:00~21:00	光岡公民館	39 人
7	若 宮	平成 15 年 8 月 5 日 (火)	19:00~21:00	東町公民館	37 人
8	咸 宜	平成 15 年 8 月 6 日 (水)	13:30~15:45	中部公民館	51 人
9	小 野	平成 15 年 8 月 18 日 (月)	19:00~20:45	小野振興センター	29 人
10	東 有 田	平成 15 年 8 月 21 日 (木)	19:30~20:50	東有田振興センター	32 人
11	三 芳	平成 15 年 8 月 25 日 (月)	19:10~21:05	三芳公民館	31 人
12	西 有 田	平成 15 年 8 月 27 日 (水)	19:00~20:35	西有田公民館	29 人
13	大 鶴	平成 15 年 9 月 4 日 (木)	19:30~21:20	大鶴振興センター	45 人
14	日 隈	平成 15 年 9 月 6 日 (土)	19:00~20:45	日隈公民館	36 人
15	高 瀬	平成 15 年 9 月 18 日 (木)	19:30~21:00	高瀬林業センター	28 人
16	上 津 江	平成 17 年 9 月 2 日 (金)	19:30~21:15	上津江振興局	32 人
17	大 山	平成 17 年 10 月 7 日 (金)	19:00~21:00	大山総合福祉センター	40 人
18	前 津 江	平成 17 年 10 月 20 日 (木)	16:00~17:45	前津江保健介護支援センター	25 人
19	中 津 江	平成 17 年 10 月 27 日 (木)	19:00~20:20	中津江振興局	22 人
20	馬原・女子畑・合田	平成 17 年 10 月 31 日 (月)	19:00~20:40	天瀬公民館東溪分館	41 人
21	湯山・桜竹・赤岩	平成 17 年 11 月 2 日 (水)	19:00~20:15	天瀬公民館	11 人
22	五 馬	平成 17 年 11 月 4 日 (金)	19:00~20:10	天瀬振興局五馬分館	30 人
			合 計	22 地区	718 人

2. アンケート調査結果のまとめ

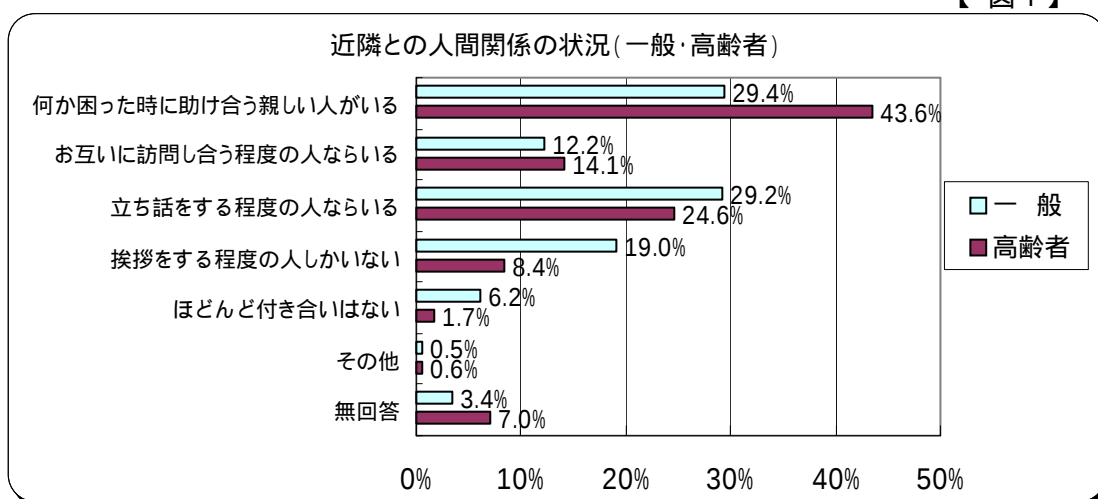
アンケートの質問項目は、個別計画のための項目も多数ありましたが、ここでは地域福祉計画に関するものを項目別にまとめました。

第1 地域生活・地域活動

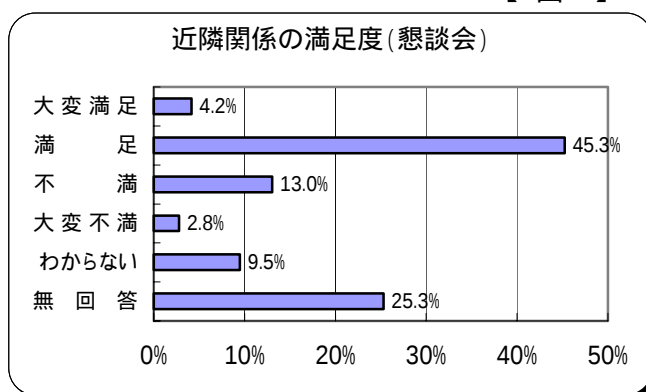
(1) 近隣の人間関係の状況

近隣の人間関係の状況の結果は、一般（20歳～64歳）で、「何か困ったときに助け合う親しい友人がいる」は29.4%ですが、高齢者（65歳以上）は、43.6%となっています。また、「お互いに訪問し合う程度の人ならいる」を合わせると、一般は41.6%、高齢者は57.7%となっており、一般より高齢者のほうが割合が高く、これは全地区で同様の傾向となっています。また、地区別懇談会の結果でも、49.5%の方が近隣関係に満足しています。（図1・図2参照）

【 図 1 】



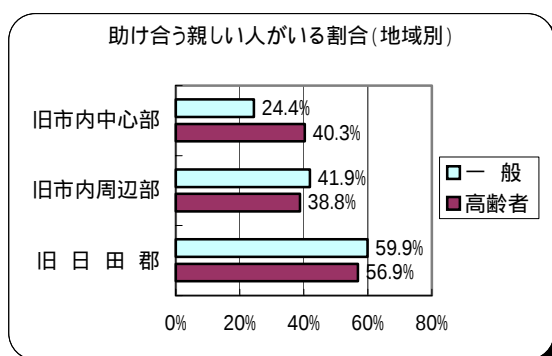
【 図 2 】



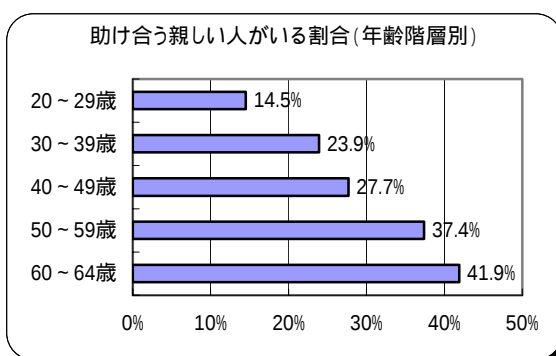
また、「何か困ったときに助け合う親しい友人がいる」方は、一般では旧市内中心部が 24.4%、旧市内周辺部で 41.9%、旧日田郡では 59.9%となっており、高齢者は旧市内中心部・周辺部ともに約 40%、旧日田郡では 56.9%となっています。全体として、日田市の周辺部になるほど近隣とのつながりが深いことをうかがわせています。(図 3 参照)

次に年齢階層別に見ると、「何か困ったときに助け合う親しい友人がいる」は 20 代で 14.5%、30 代が 23.9%、40 代は 27.7%、50 代が 37.4%、60～64 歳で 41.9%となっています。(図 4 参照)

【 図 3 】

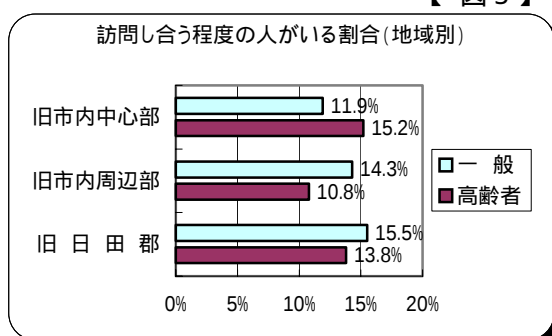


【 図 4 】

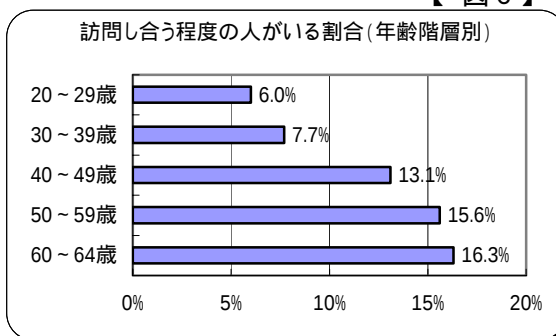


また、「お互いに訪問し合う程度の人ならいる」も同様の結果となっており、年齢を重ねるほど近隣とのつながりが深くなることがわかります。(図 5・図 6 参照)

【 図 5 】



【 図 6 】



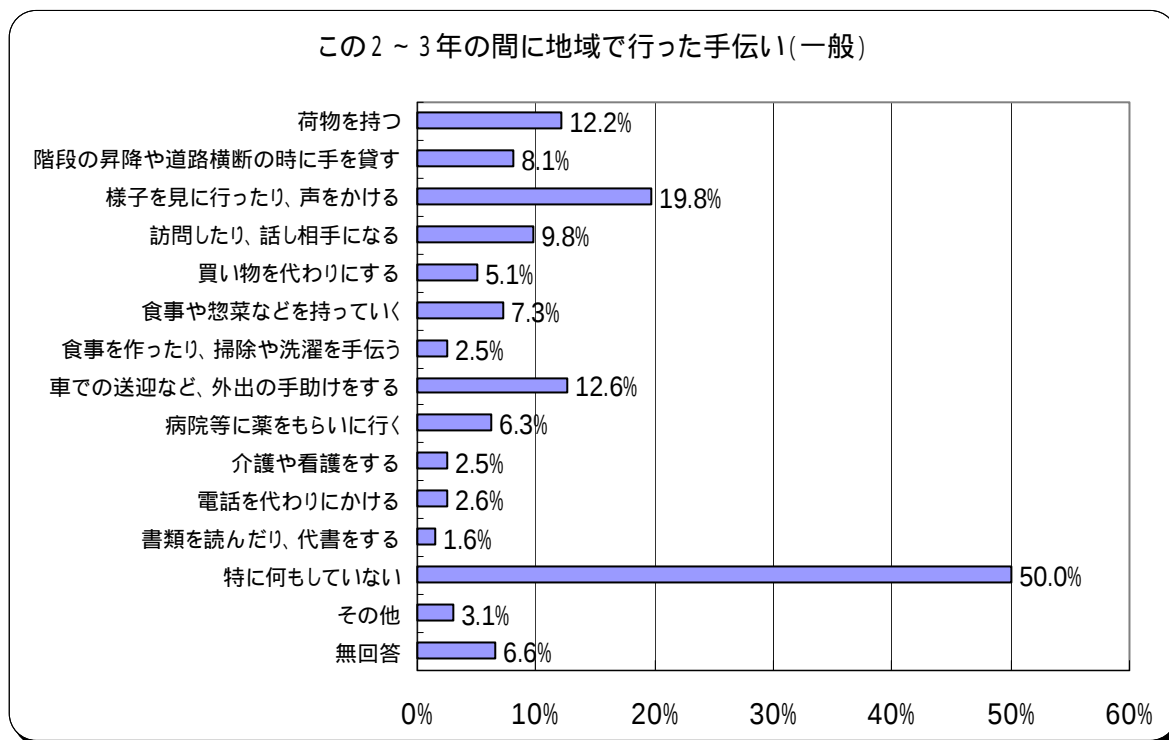
さらに、「ほとんど付き合いがない」と答えた方は、一般では 6 %、高齢者で 2 %と少なく、「お互いに訪問し合う程度の人ならいる」、「立ち話をする程度の人ならいる」を合わせると、一般・高齢者とも 40%前後と多いことから、近隣関係を更に深めていける余地があるといえます。(図 1 参照)

(2) 地域で行った手伝いの状況

この2～3年の間に地域で行った手伝いの状況は、一般では約 40%の方が経験しており、その半数の経験内容が「様子を見に行ったり、声をかける」となっています。

(図 7 参照)

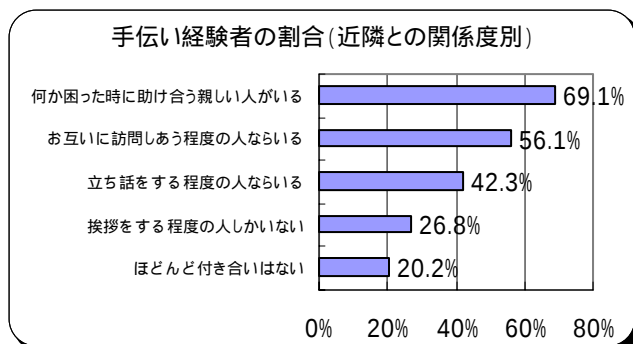
【 図 7 】



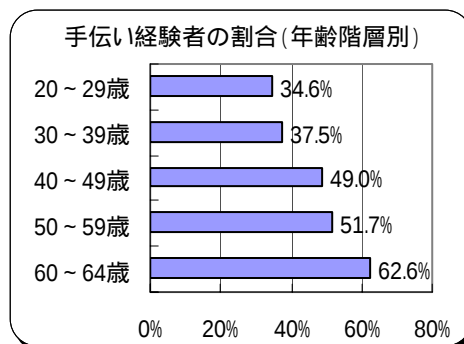
また、ご近所に「何か困ったときに助け合う親しい友人がいる」と答えた方の 69.1% が手伝いの経験があり、以下関係が浅くなるに従って減少し、「ほとんど付き合いはない」方は 20.2% となっています。(図 8 参照)

さらに手伝い経験者の割合を年齢階層別に見ても、近隣の人間関係の状況と同様、年齢を重ねるに従って高くなり、20代で 34.6%、60～64歳では 62.6%の方が手伝いの経験があると答えています。(図 9 参照)

【 図 8 】

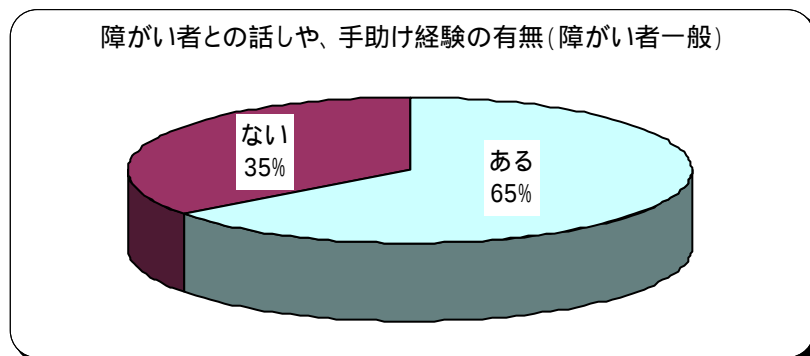


【 図 9 】



障がい者と気軽に話したり、障がい者への手助けの経験に関しては、65%の方が「ある」と答えています。(図 10 参照)

【 図 10】

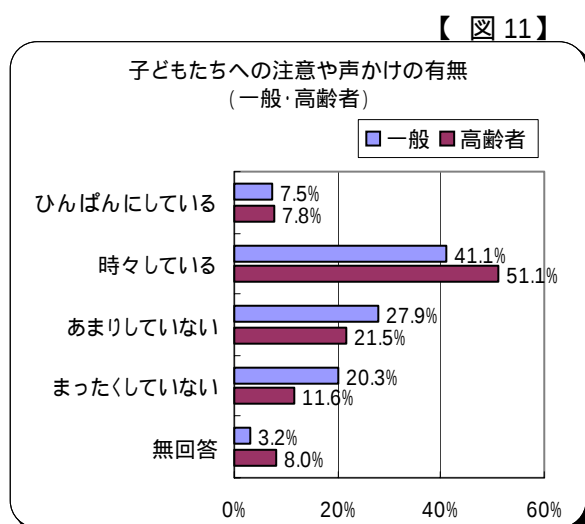


(3) 地域での声かけの状況

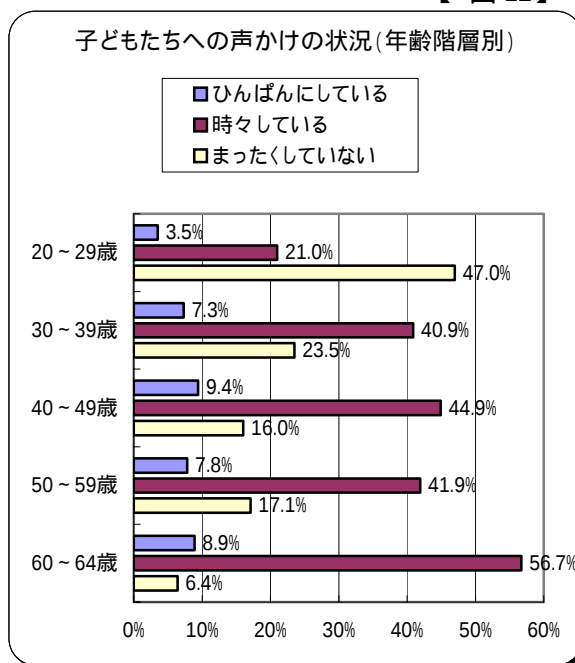
地域の子どもたちへの注意や声かけの有無は、一般では「ひんぱんにしている」、「時々している」と答えた方を合わせると 48.6%、高齢者では 58.9%の方が声かけを行なっています。(図 11 参照)

また、年齢階層別の声かけの状況は、「ひんぱんにしている」、「時々している」と答えた方を合わせて、20 代が 24.5%、30～50 代が 50%前後、60～64 歳が 65.6%となっており、20 代のほぼ半数は「まったくしていない」と答えています。(図 12 参照)

【 図 12】



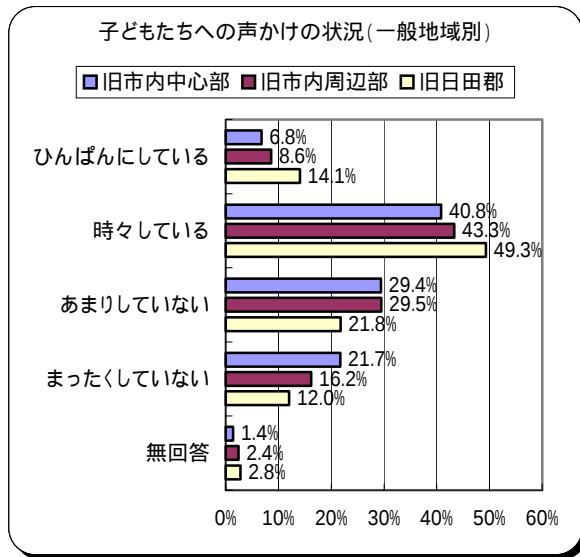
【 図 11】



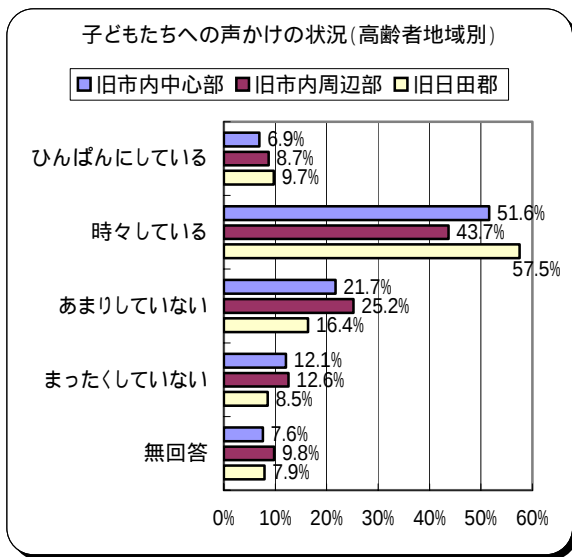
声かけの頻度は、子育て世代以上の現役世代では差がなく、地区によりばらつきがあるものの、周辺部になるほど高くなる傾向が見られます。(図 13・図 14 参照)

全体として、声かけの頻度は高い状況だといえます。

【 図 13】



【 図 14】

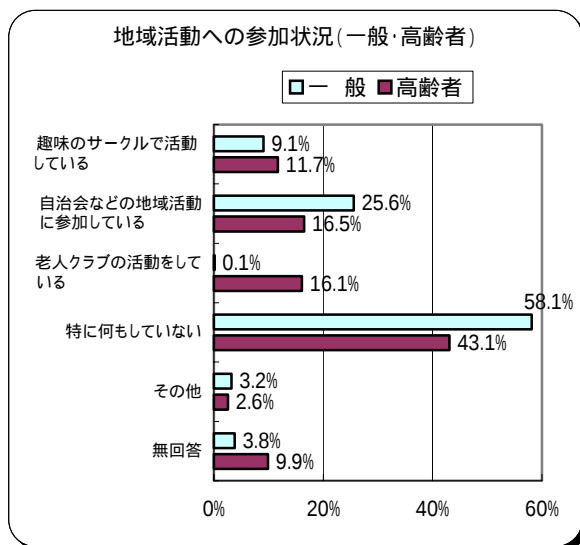


(4) 地域活動への参加状況と今後の参加意識

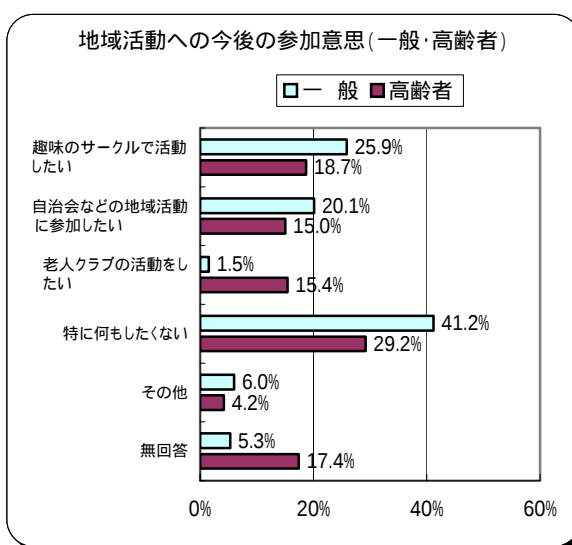
地域活動への参加について、「特に何もしていない」と答えた方は一般で 58.1%、高齢者は 43.1%となっており、「自治会などの地域活動に参加している」方は、一般で 25.6%、高齢者では 16.5%となっていますが、地域活動への今後の参加意識は、「特に何もしたくない」方が一般で 41.2%、高齢者が 29.2%と、いずれも現在「特に何もしていない」方の割合を下回っています。(図 15・図 16 参照)

また、現在「自治会などの地域活動に参加している」方(回答数 372)の今後の意志は、「参加したい」が 56.2% (回答数 209)、「何もしたくない」は 14.0% (回答数 52)となっており、現在参加していない方(回答数 834)の今後の意思は、「参加したい」が 6.1% (回答数 51)、「何もしたくない」が 62.5% (回答数 521)となっています。

【 図 15】



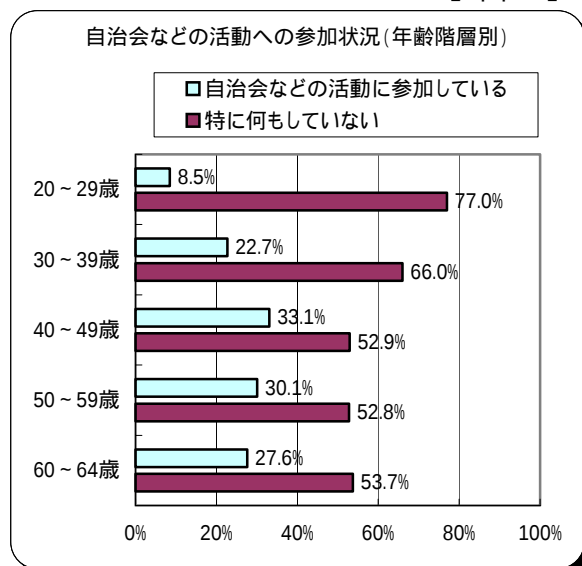
【 図 16】



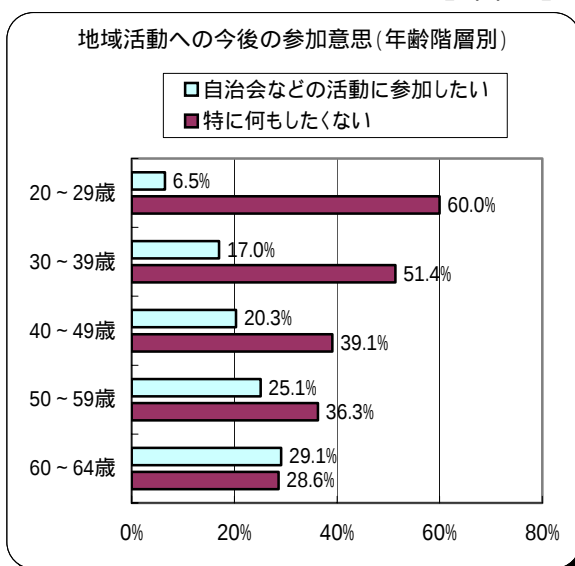
次に、自治会などの地域活動への参加者を年齢階層別に見ると、20代は8.5%、30代は22.7%、40代以上が30%前後となっています。(図17参照)

また、年齢階層別に見た「自治会などの地域活動」への今後の参加意思については、60～64歳を除き各年齢階層とも現在活動に参加している方の割合を下回っています。(図18参照)

【図17】

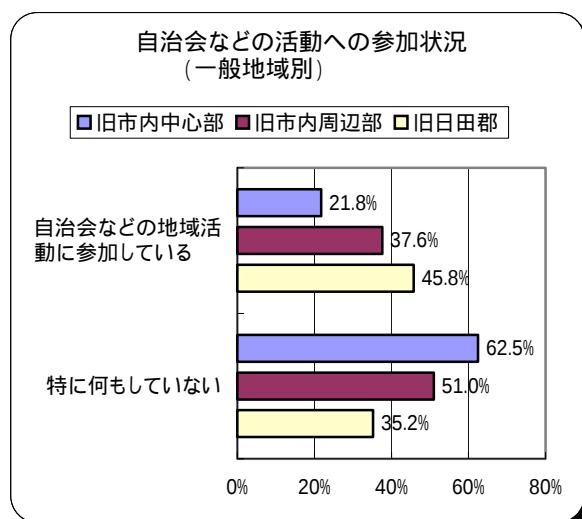


【図18】

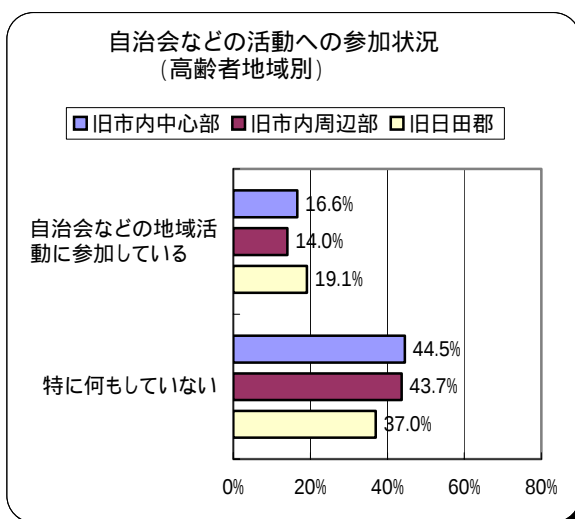


地域別に見た自治会などの地域活動への参加状況は、一般では旧市内中心部が21.8%、旧市内周辺部で37.6%、旧日田郡では45.8%となっており、周辺部になるほど高くなっていますが、高齢者の参加状況は、各地区14%～19%となっており、地域での差はあまり見られません。(図19・図20参照)

【図19】

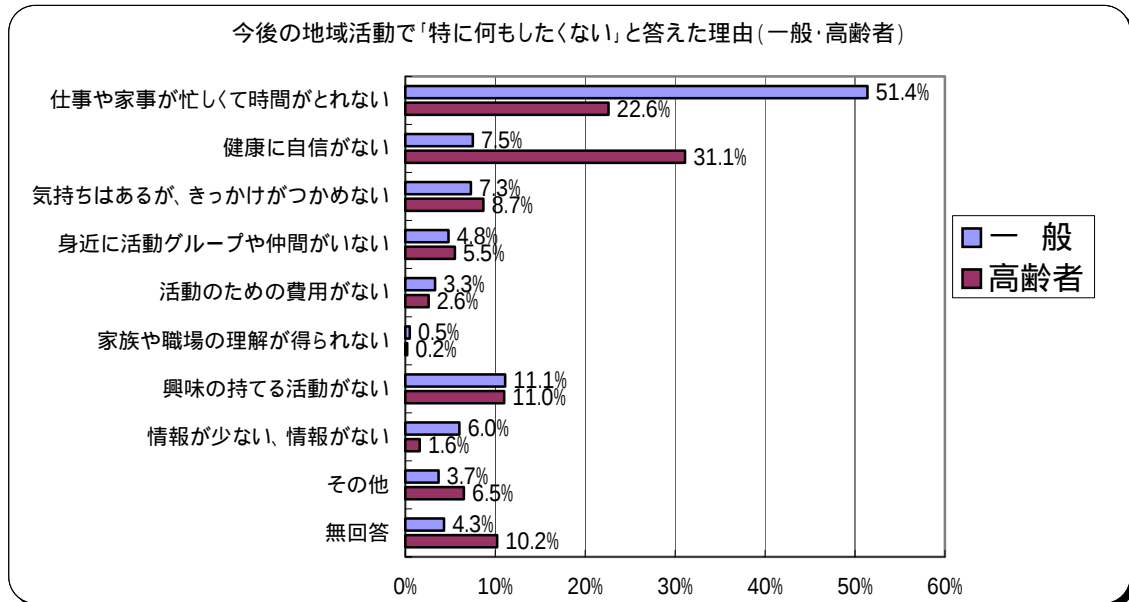


【図20】



今後の地域活動について「特に何もしたくない」理由は、一般では「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」が51.4%を占めており、高齢者は「健康に自信がない」が31.1%で最も多く、次いで「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」が22.6%となっています。(図21 参照)

【図21】

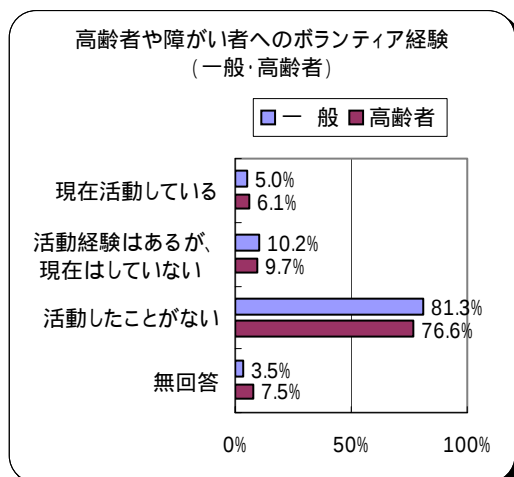


(5) ボランティア活動

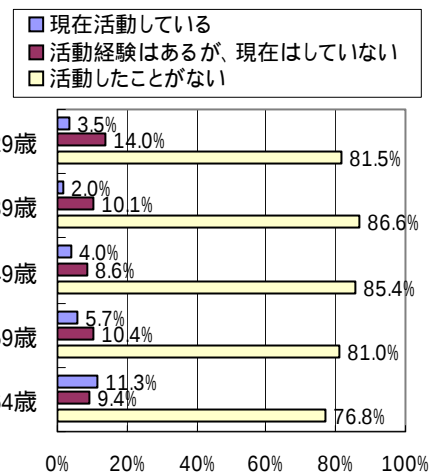
現在、ボランティア活動を行っている方は、一般で5.0%、高齢者で6.1%となっており、地区により若干差があるものの、地域による差は見られません。また年齢階層別では60～64歳が唯一10%を超えています。一方、「活動したことがない」、「現在はしていない」と答えた方を合わせると、一般・高齢者ともに90%前後となっており、年齢階層別に見ても差はありません。(図22・図23 参照)

【図23】

【図22】



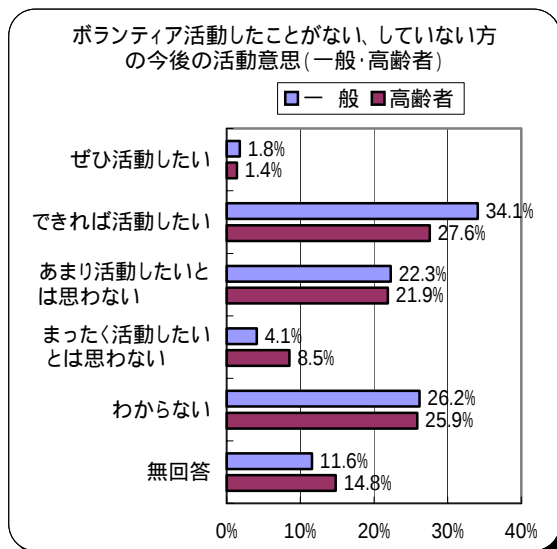
高齢者や障がい者へのボランティア経験
(年齢階層別)



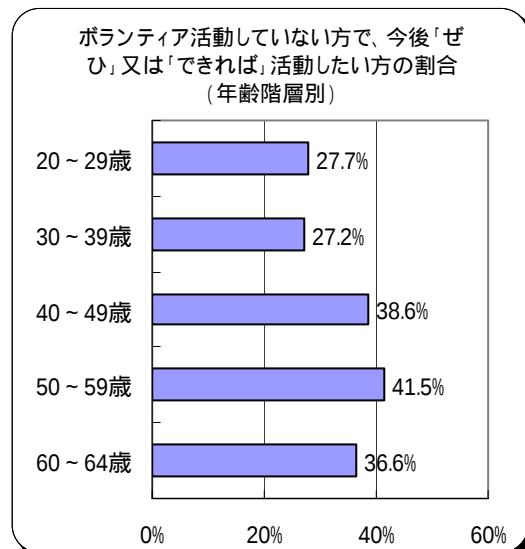
ボランティア活動を「したことがない」又は「していない」方が、今後ボランティア活動を「ぜひ活動したい」又は「できれば活動したい」と答えた方の割合は一般で35.9%、高齢者で29.0%となっており、ボランティア活動者を増やせる要素があることがわかります。(図24 参照)

また、年齢階層別に見ると50代が41.5%で最も多く、以下40代・60～64歳が40%弱、20代・30代が30%弱となっています。(図25 参照)

【 図 24 】

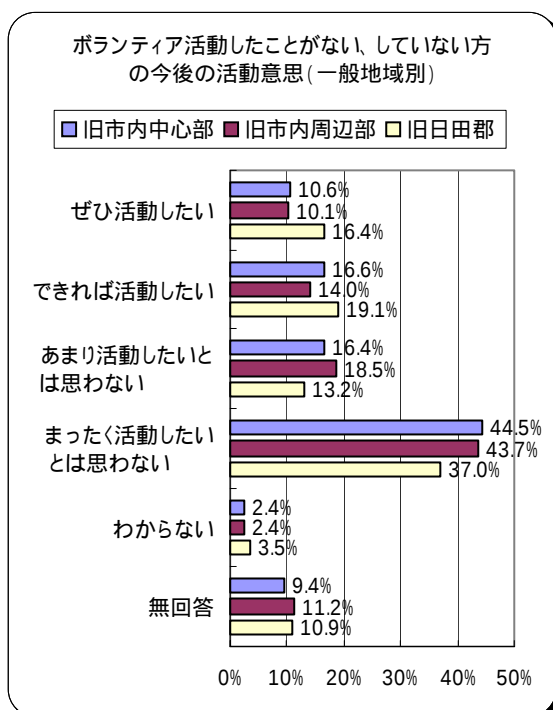


【 図 25 】

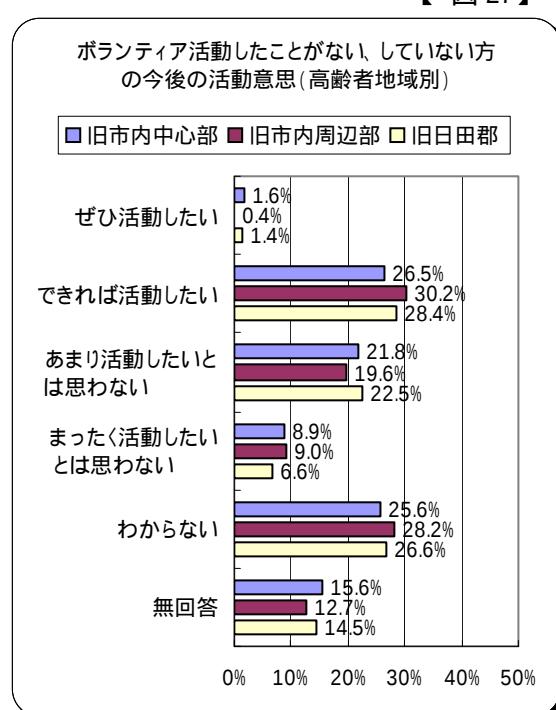


さらに、地域別に見ると、一般・高齢者とも地区により若干のばらつきがあるものの、地域間での差はあまり見られません。(図26・図27 参照)

【 図 26 】

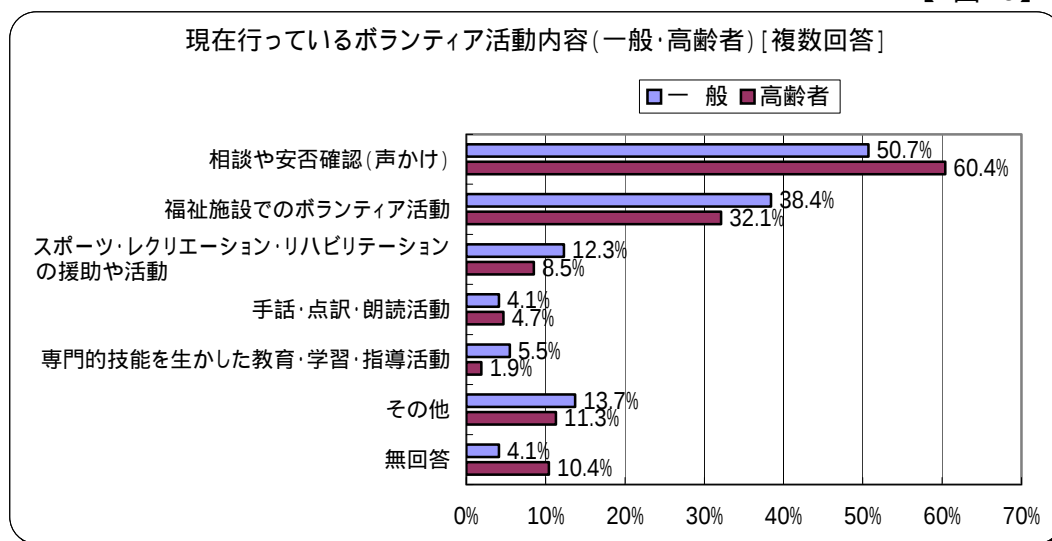


【 図 27 】



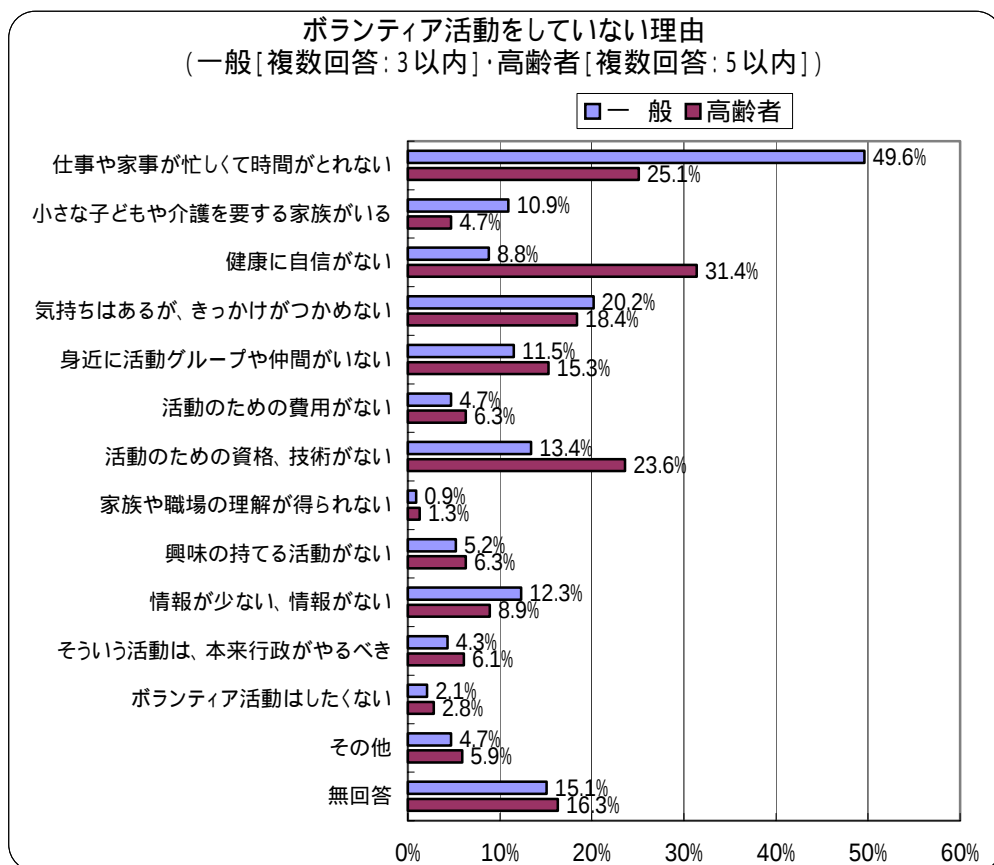
現在のボランティア活動の内容を見ると、「相談や安否確認」で一般が 50.7%、高齢者が 60.4%、次いで「福祉施設でのボランティア活動」が一般 38.4%、高齢者が 32.1%と、この 2 項目が多く割合を占めています。(図 28 参照)

【図 28】



ボランティア活動をしていない理由としては、一般では「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」と答えた方が 49.6%を占めていますが、高齢者では「健康に自信がない」が 31.4%で最も多く、次いで「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」が 25.1%となっています。(図 29 参照)

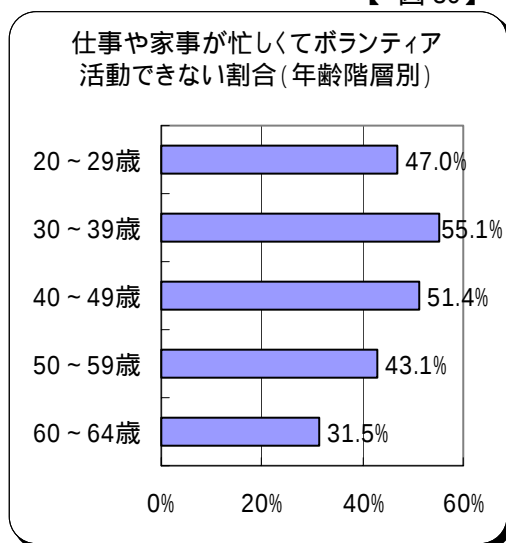
【図 29】



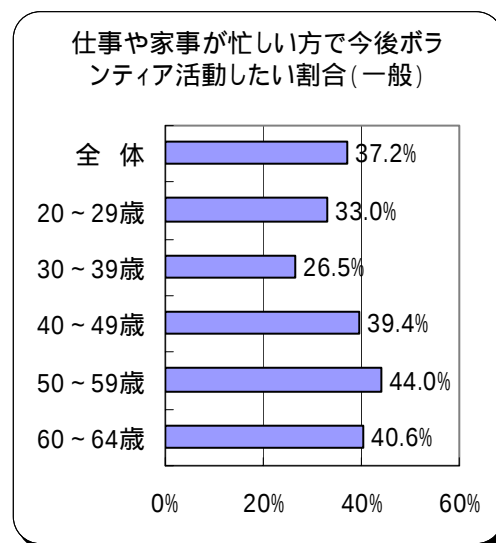
一般で「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」と答えた方を年齢階層別に見ると、30代（55.1%）が最も多く、以下40代（51.4%）、20代（47.0%）、50代（43.1%）、60～64歳（31.5%）となっています。（図30参照）

また、この方々の中で、今後ボランティア活動に「ぜひ・できれば活動したい」と答えた方の割合は37.2%となっており、さらに、年齢階層別に占める割合は、50代（44.0%）、60～64歳（40.6%）、40代（39.4%）、20代（33.0%）、30代（26.5%）の順となっています。（図31参照）

【図30】



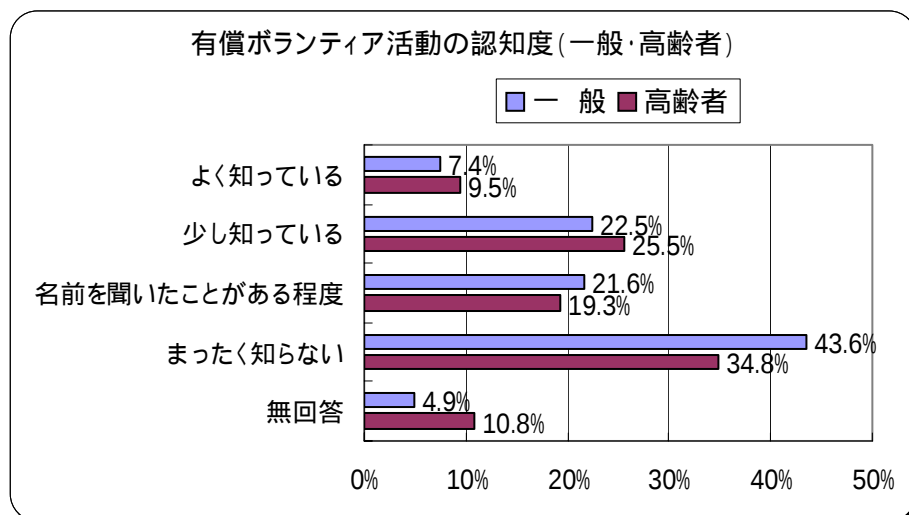
【図31】



（6）有償ボランティア活動

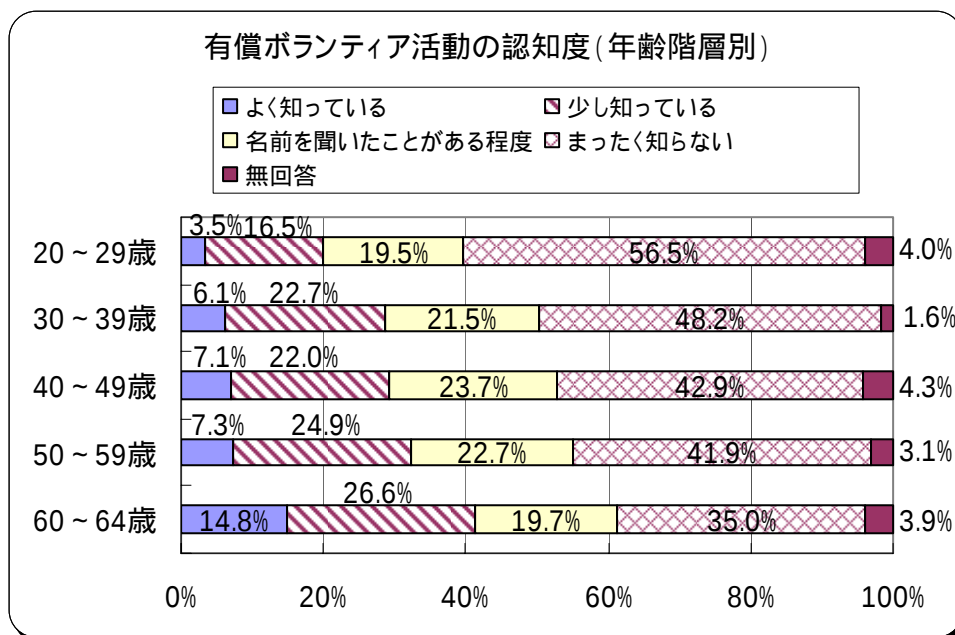
有償ボランティア活動の認知度では、「まったく知らない」が一般で43.6%、高齢者が34.8%で最も多く、次いで、「少し知っている」が一般22.5%、高齢者25.5%、「名前を聞いたことがある程度」は一般が21.6%、高齢者が19.3%、「よく知っている」は一般・高齢者とも10%弱となっています。（図32参照）

【図32】



年齢階層別では、「よく知っている」、「少し知っている」とも年齢階層が上がるほど認知割合も上がり、両者合わせて 20 代が 20.0%、60～64 歳では 41.4%となっています。(図 33 参照)

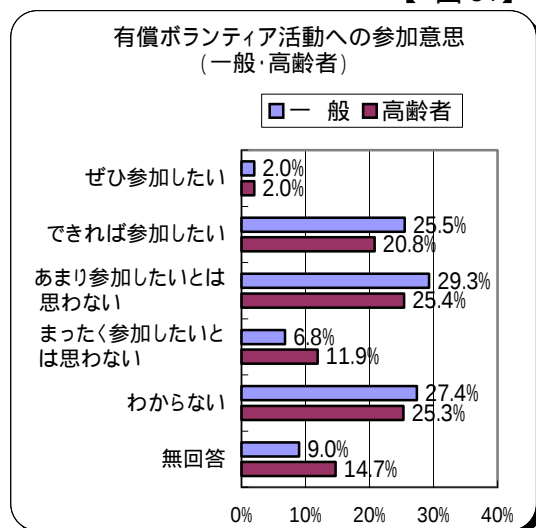
【 図 33】



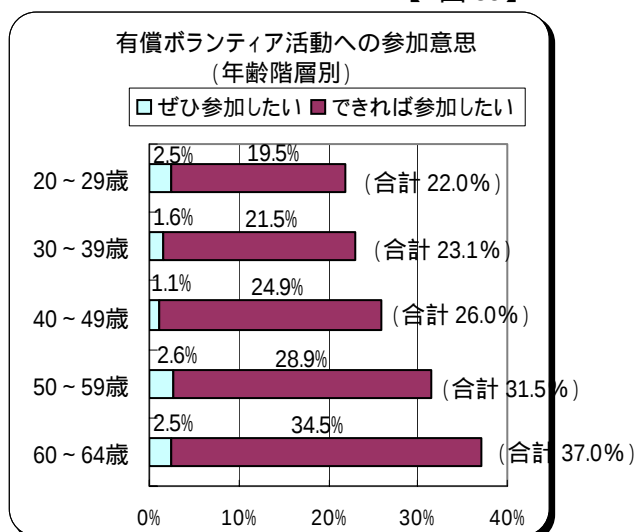
次に、有償ボランティア活動への参加意思では、「ぜひ参加したい」、「できれば参加したい」を合わせると、一般が 27.5%、高齢者は 22.8%、「あまり参加したいとは思わない」、「まったく参加したいとは思わない」を合わせると、一般・高齢者とも 37%前後となっています。(図 34 参照)

年齢階層別に「ぜひ参加したい」、「できれば参加したい」を合わせた結果を見ると、認知度と同様に、年齢階層が上がるほど「参加したい」割合も上がり、20 代で 22.0%、60～64 歳では 37.0%となっています。(図 35 参照)

【 図 34】



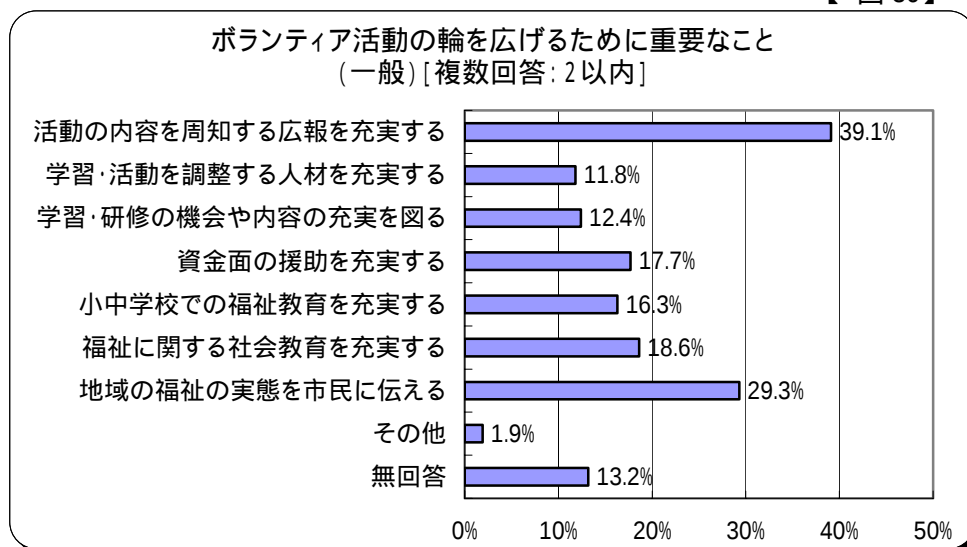
【 図 35】



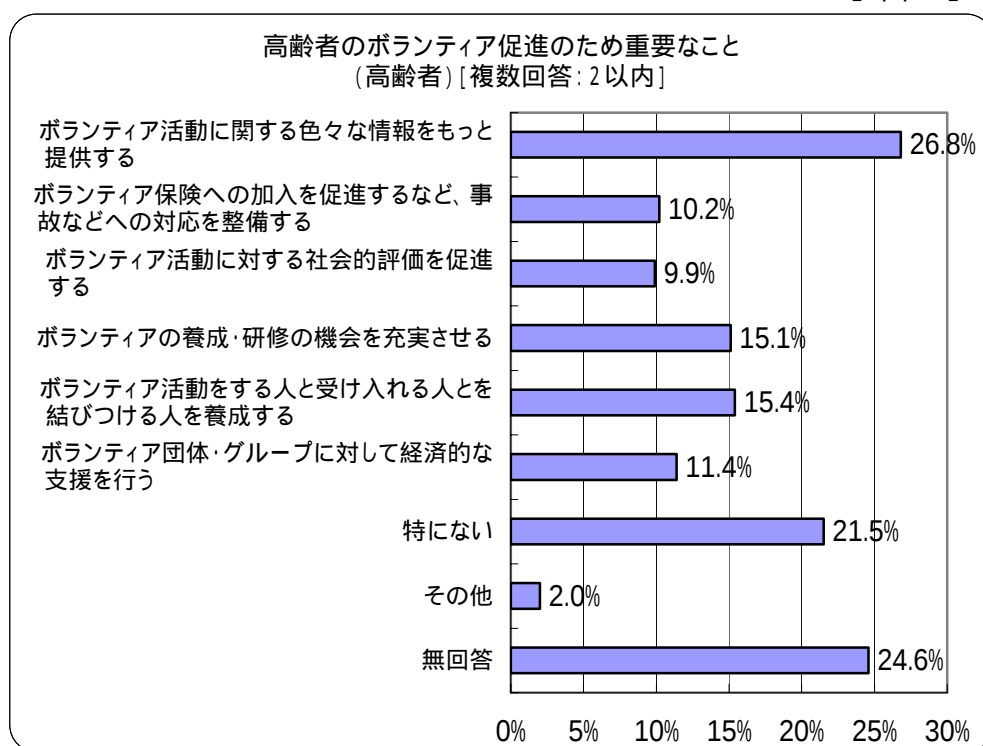
(7) ボランティア活動促進のために重要なこと

ボランティア活動促進のために重要なことは、一般では「活動内容を周知する広報を充実する」が39.1%、高齢者は「ボランティア活動に関する色々な情報をもっと提供する」が26.8%で最も多く、ともに情報提供が重要という結果となりました。(図36・図37参照)

【図36】



【図37】

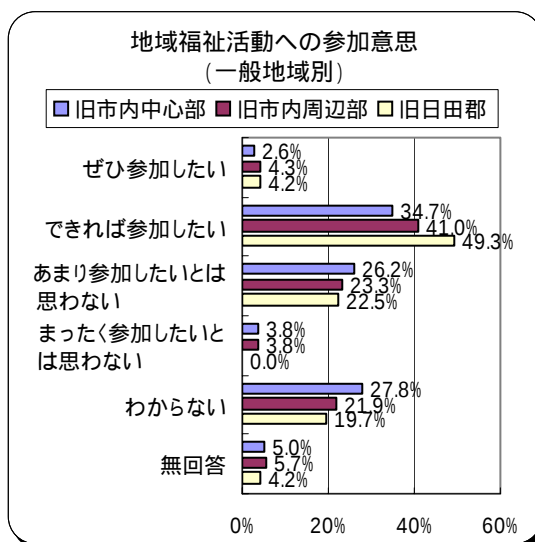
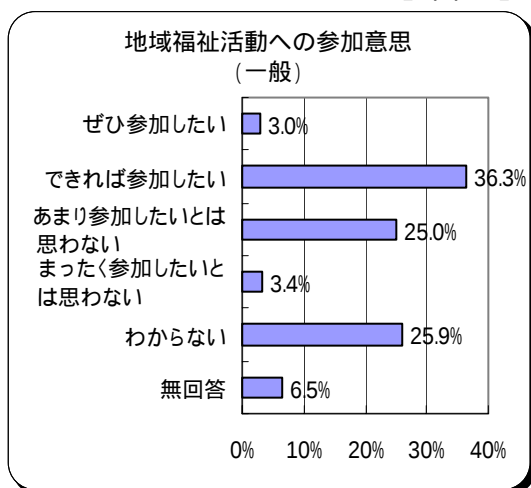


（８）地域福祉活動への参加意思

お年寄りや障がい者等を自治会単位などで支え合う活動など、地域の福祉活動への参加意思は、一般では「できれば参加したい」が 36.3%で最も多く、「ぜひ参加したい」を合わせると、39.3%となっており(図38参照)。地域別では旧市内中心部が 37.3%、旧市内周辺部が 45.3%、旧日田郡は 53.5%となり、周辺部になるほど参加したい割合が高くなっています。(図39参照)

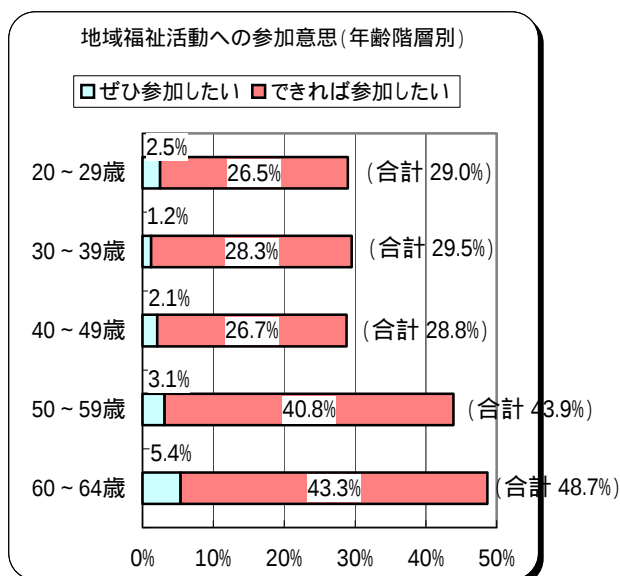
【図39】

【図38】

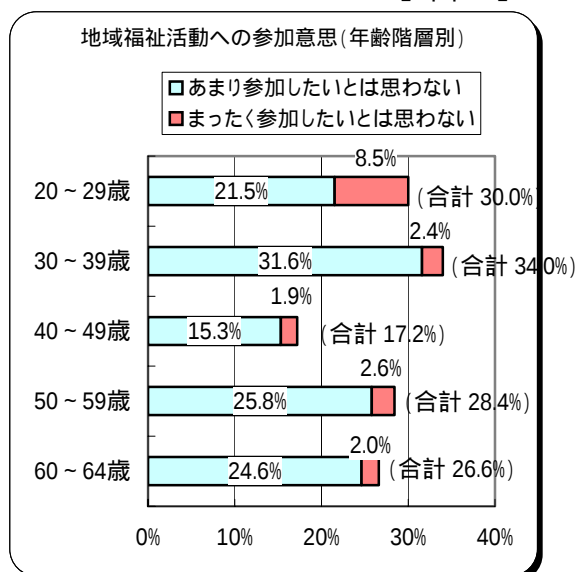


また、年齢階層別に「できれば(ぜひ)参加したい」と回答した方の割合を見ると、20～40代が30%弱で、50代43.9%、60～64歳は48.7%となっています。(図40参照)一方、「あまり参加したいとは思わない」、「まったく参加したいとは思わない」を合わせると、40代が17.2%で最も少なく、30代が34.0%と最も多くなっています。(図41参照)

【図40】

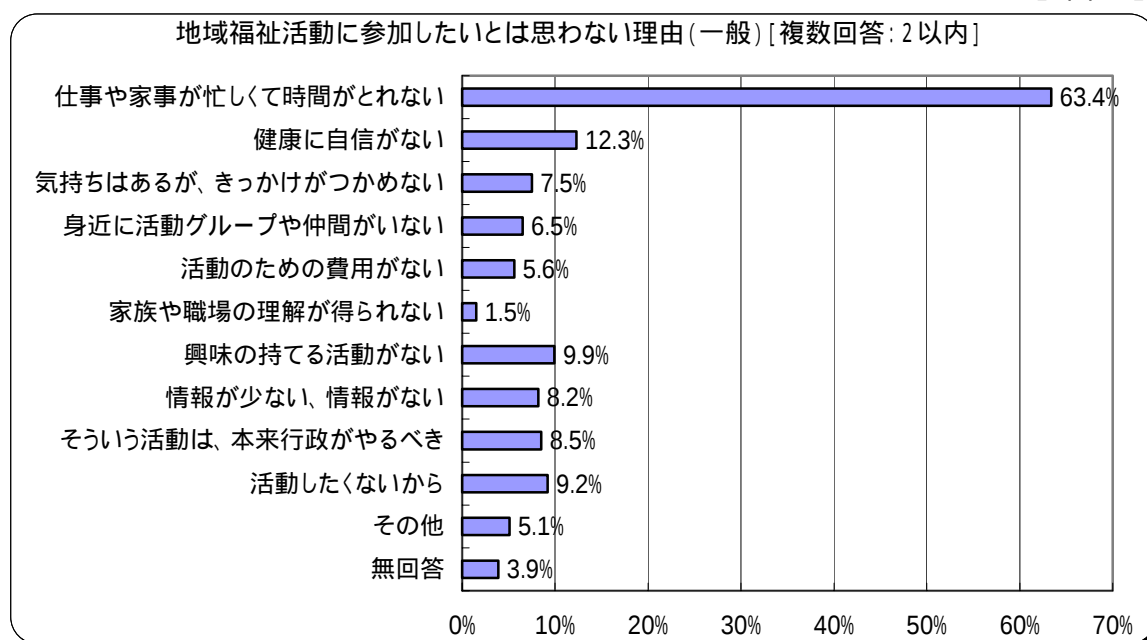


【図41】



次に、「あまり（まったく）参加したいとは思わない」理由は、地域活動やボランティア活動と同様に、「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」が 63.4%を占めています。（図 42 参照）

【 図 42 】



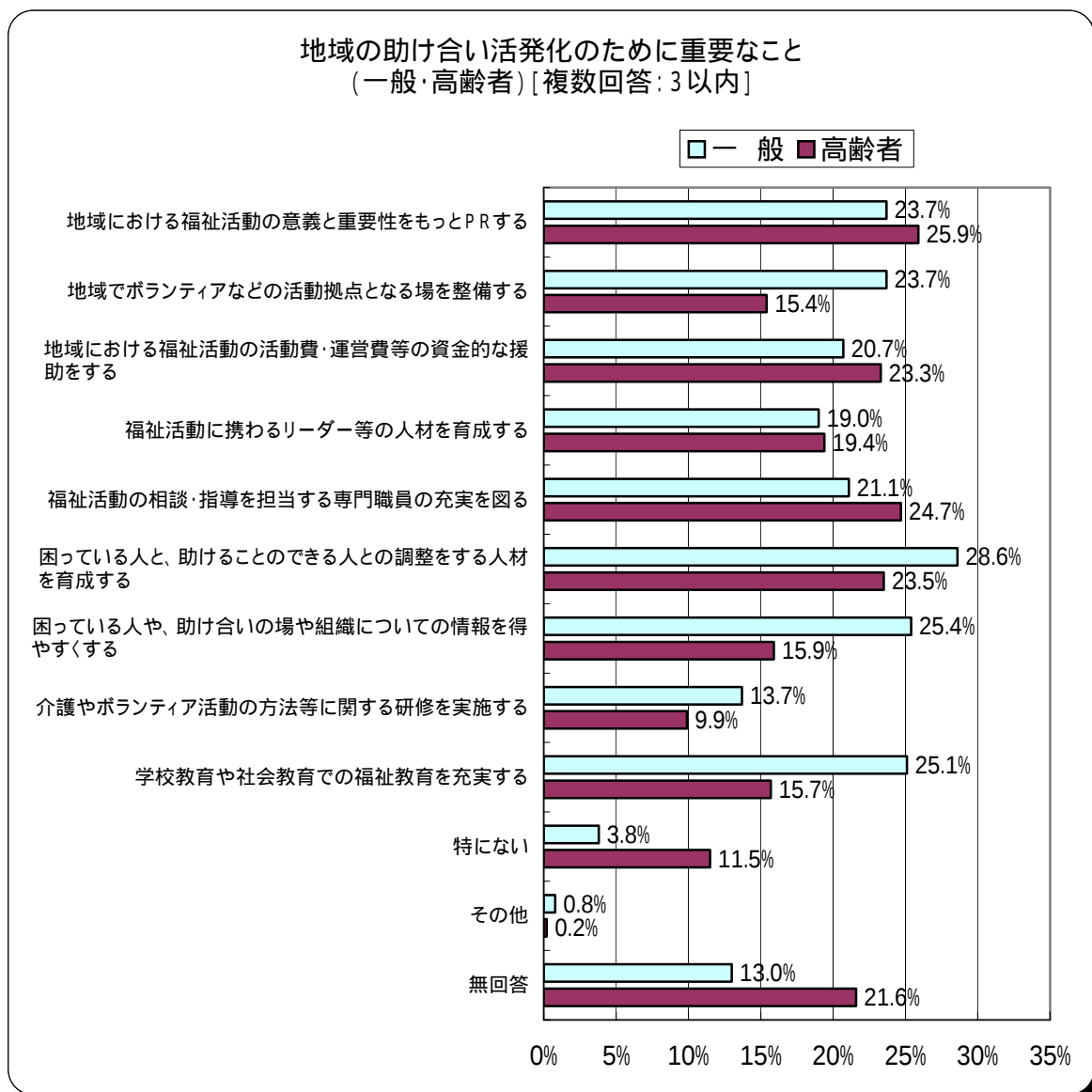
（ 9 ）地域における助け合いを活発にするために重要なこと

地域における助け合いを活発にするために重要なことは、一般では「困っている人と、助けることができる人との調整をする人材を育成する」が 28.6%で最も多く、「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」、「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」、「地域でボランティアなどの活動拠点となる場を整備する」、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと P R する」、「福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る」、「地域における福祉活動の活動費・運営費等の資金的な援助をする」が 20%～25%となっています。（図 43 参照）

また、高齢者では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと P R する」、「福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る」、「困っている人と、助けることのできる人との調整をする人材を育成する」、「地域における福祉活動の活動費・運営費等の資金的な援助をする」が 25%前後で、「福祉活動に携わるリーダー等の人材を育成する」が 19.4%となっています。（図 43 参照）

一般・高齢者のいずれも回答が集中した項目はなく、それぞれの項目に分散した回答結果となっています。

【 図 43】



第2 福祉・健康に関する意識と考え方

(1) ノーマライゼーションという言葉の認知度

ノーマライゼーション（障がい等のハンディキャップのある方も、ない方と同じように共に地域の中で普通の生活をしていくことができる社会にすべきであるという考え方）の認知度は、「聞いたことがない」が50.5%で最も多く、「聞いたことはあるが、意味はわからない」が24.1%、「聞いたことがあり、意味も知っている」は18.5%となっています。(図44 参照)

年齢階層別に見ると、「聞いたことがあり、意味も知っている」、「聞いたことはあるが、意味はわからない」を合わせて、20・30代が40%、40・50代が44%、60～64歳が47%となっています。(図45 参照)